

富士見町の50年の森ビジョンに向けた勉強会



富士見街中の 里山保全 に向けて

帰去来荘及び周辺の里山を富士見町の魅力を高める
市民の森にしていくために

富士見まちづくりラボ

はじめに

約50人ほどの参加者によるワークショップで話し合われた内容を次頁以降整理します。



- ・富士見まちづくりラボでは、50年の森のビジョンを考える勉強会の一環として、富士見町の街中の里山保全を考える勉強会を9月21日に開催。
- ・勉強会では、スイスの森林保全・伊那市のミドリナ委員会の取り組みについてパネルトークを実施。
- ・スイスや伊那市の経験から学んだことは、市民と森との間を近づけ、市民がそこに憩い、交流し、癒しを受けることのできる市民の森を創っていくことが厄介者となってしまった森を再生、活用しながら、森を生かした心身豊かな持続可能なまちづくりの出発点となること。
- ・富士見町には、このような市民の森になりうる里山が街中に残っている。街中の里山の活用が、富士見町の持続可能な未来の鍵となる



帰去来荘、白林荘などの森&緑の価値 を生かした市民の森：森林公園へ

春はつつじ、夏はやまゆり
秋は美しい紅葉

多様性のある森

帰去来荘のお庭再生プロジェクト
(造園業のプロの指導で、作業を経験しながら、無農薬の庭造り、地元にあう庭木や草花の選び方など)

町民が集える森林公園化へ

自然林として保存、間引きする木は間引きし、住民憩いの林に
遊歩道、看板、林の中のこどもの遊び場

森の観察会

宝探しイベント



市民の森の魅力を生かした 人と人をつなぐ交流拠点に

森のカフェ 森の恵みを堪能

食堂、宿泊、研修

森のオフィスや白林荘などと一体的に

お茶会、観察会

成人式

多世代へのノウハウ共有

大人にとっても生涯学習

市民の森として子どもたちの
学びと成長を支援する場に

小学校の総合学習の場に

森の中で環境教育、算数や
理科などの学びも

体験の中での遊び
主体性・創造力を育む場に



小学校の” 森の通学路” に
～通学路の復活～

” 森の学童保育”

友好都市のこどもと富士見町の
こどもが交流できる場所に

林間学校の拠点

文化と歴史の香りを味わう里山

帰去来荘～白林荘～富士見公園
～分水の森を歴史の散歩道として整備

白林荘と帰去来荘をつなげた
歴史散歩イベント

こどもたちが富士見の歴史や文化を知るチャンスとして、小中学校の授業に地域のツアーを取り込んでほしい



帰去来荘、白林荘、武蔵野大学の森など町中一体の里山保全 が新たな町の市民の憩い&観光拠点に

白林荘、帰去来荘、区有林を合わせて保全、活用

一体的な文化遺産めぐり、おひさんぽのコース

富士見公園 アララギ派の合宿

甲州街道観光（甲州街道の案内）

白林荘を開放してほしい。白林荘オープンイベント
入場料をとっても住民に公開してほしい



町への提案

町が土地を購入、白林荘と帰去来荘
を合わせて保全

街中の里山のモデルとして維持・管
理・利用方策を提案し、実施する者
の公募

維持管理のために、一部は入場料
(50円ぐらい) をとる

役場に自然保全課、環境保全係
などが必要では？




富士見まちづくりラボからの提案

帰去来荘、白林荘、周辺の里山、分水の森をまとめて、文化と歴史香る町中の里山として、富士見町第1号の「**里山整備利用地域**」（5ha以上の山林が必要）に認定を検討してはどうか？

「里山整備利用地域」の認定により、**森林税から、協議会の運営資金の他、間伐の補助金、資機材、人材育成の補助金を受けることが可能**。特に「開かれた里山」として整備することにより上乗せの支援を受けられる可能性がある。なお**財産区の森は森林税の対象外であるが、里山整備利用地域にすることで森林税が活用可能になる**（里山整備利用地域は長野県内102か所富士見町内にはゼロか所で、町民が負担している森林税が富士見町以外の場所で使われている状況）

なお、「里山整備利用地域」は、整備が行き届かない集落周辺の里山の整備を促すことが目的であり、街中の里山整備の観点からは富士見台、瀬沢新田など周辺の里山整備にも活用していくことも有効。



単位m2	山林	原野
帰去来荘	9,213	1,559
富士見財産区	11,386	8,196
白林荘	24,673	598
個人所有林	19,930	6,411
合計	65,202	16,764


富士見まちづくりラボからの提案



里山整備利用地域の指定にあたっては、当該エリアを周辺地域の住民の皆様のご意見を伺いながら、自然環境、防災・減災、歴史・文化等の視点からゾーニングをすることが望ましい。
これが富士見町の森のゾーニングのモデル事例になりうる。

また、道路沿いや民家周辺に木の枝が伸び、また、今後倒木の可能性のある支障木が多くあるが、安全な生活環境を維持していくためには、これらをマッピングし予防的・計画的に伐採していくが必要。

上記にむけて、官民協働で里山整備利用協議会の立ち上げを検討してはどうか？その際、富士見町として関係者のコーディネートを行う林政アドバイザーを雇用するとともに、現在立ち上げに向けて準備されている「もりぐらしワンストップセンター(仮称)」の支援を受けながら進めてはどうか？



富士見まちづくりラボからの提案

里山整備利用協議会の立ち上げにあたっては、
森林整備に加え、後の継続的な利用や管理のため

- ・ 森のビジョン・里山整備部会
- ・ 里山利用&活用部会 を設置することが望ましい。

協議会には、所有者、地元区、林業事業者、町、利活用に関心のある住民、住民グループで構成されるのが望ましい。

(例) 諏訪は5地域のみ。茅野市が永明寺山ふれあいの森を創る会(市林務課が事務局) 小泉山体験の森里山整備利用推進協議会(市生涯学習課が事務局)、信州ビーナスライン沿線里山整備利用推進協議会(市観光課が事務局) 鹿山地区もりぐらし推進地域協議会(市林務課が事務局) 北真志野里山整備利用推進協議会(生産組合が事務局)
茅野市は、間伐に対する上乗せ補助があり、実質的な負担は1%のみ)

部会を設置して管理、運営することで、土地所有者に新たな負担が生じないように十分配慮して取り組むことが重要。

- ・ 森のビジョン・里山整備部会では、50年先を想定をしてどのような森を作るかを検討し、必要な間伐等を行うとともに、人々が散策、集うことができる遊歩道などを整備してはどうか？
- ・ 里山利用&活用部会では、森の利活用を自ら行うことに関心のある住民や事業者の参画の元、森の維持管理とともに、文化・歴史香る里山として望ましい多面的な利用(カフェ等の商業利用を含む)を検討してはどうか？





富士見まちづくりラボからの提案

帰去来荘の跡地について

帰去来荘の跡地について、太陽光発電の事業は中止になったが、土地の所有権は事業者側にある。今後土地の売却により別の開発事業者に渡る可能性もありうる。

したがって、帰去来荘の自然環境を守っていくため

- ・富士見町が土地を購入する
- ・トラスト活動を行い幅広い市民等から資金を募る（トラスト活動に展開にあたっては、資金を募る前に、実質的に土地を確保する手段を講じることが必要）
- ・企業の森として保全されるよう企業に購入を働きかける

などを検討することが必要である。

または、周辺の地域を里山整備利用地域として認定し、保全・管理の取り組みを進めていくことで開発しづらい環境を整備していくことも有効である。

里山利用・整備部会の参考事例

伊那市のミドリナ委員会

伊那市の外郭団体(予算は伊那市や元気づくり支援金)
事務局は耕地林務課50年の森林ビジョン推進室
委員は、伊那市内外40名の多様なメンバー
主に動いているのは執行部の10人くらい

具体的な取組み

「ミドリナカフェ」

様々な切り口から森林と人をつなぐ、森を知り、森と関わる体験型の催し
暮らしの中に森を取り入れるヒントやアイデアを案内人から学ぶイベントを開催

「森のマルシェ」

- ・伊那市の森でうまれた様々な製品が集うマルシェ、林業関係事業と地域経済がつながるきっかけづくり
- ・林業関連事業者、木工作家、森に関わる飲食店などが参加、双方向に知恵を交換し合う場として機能

「たき火の日」

毎月第1水曜日に市民の森でたき火を囲んで過ごす

- ・市民の森 = 「森林コミュニティの入り口」と位置づけ、誰もが気軽に参加できる催し
- ・多様な人々が集まり、散策や自然観察を行いながら、火起こし体験や食べ物を焼くなど、自由にリラックスして過ごす中で、自然と共に暮らす知恵や原理を学ぶ
- ・一般参加者のほか、社会福祉協議会と連携し、通信制高校に通う学生に声をかけ参加してもらった。

社会に入りづらい子供たちの居場所づくりも目指す

組織

